

112

contents

コレクション展
特別展予告
コレクション展年間シリーズ企画 雪舟と雲谷派
美術館からのお知らせ
年間スケジュール

天花
TENGE
天花



塚本武雄 「童女」 1927年 山口県立美術館蔵

コレクション展

展示室B

フラワーズ!

4/14_{tue}～5/31_{sun}

表紙作品解説

榎本武雄 「童女」 昭和2年(1927)
絹本着色 167.3×95.0cm 山口県立美術館蔵

赤いチューリップが咲く丘に、花柄の真っ赤な着物をまとった童女が立っています。花弁と相似をなすように、たっぴりとゆるやかに流れる袂や裾。チューリップの妖精のようにも見える童女は、その花と同じように空に向かってまっすぐに咲いているようです。これまで当館ではこの作品を「チューリップと少女」と仮題し紹介してきましたが、近年の研究により、昭和2年(1927)の第3回菊池塾展覧会に出品された「童女」であることが確認されました。

京都で染色図案を営む家に生まれた日本画家・榎本武雄(1901～1996)は、先に日本画家として成功していた兄・榎本一洋の4人の娘たちをたいへんにかわいがったといえます。当館で多くの作品と久々のご対面を果たしたそのご姉妹は、たいへんに懐かしがられ、「童女」のモデルが、「おふね」(第8回帝展出品、昭和2年、当館蔵)とともに、ご長女であることをご教示くださいました。

作家はしばしば自らの家族をモデルにして作品を制作しますが、この絵は子どもがいなかった武雄が兄の娘をチューリップに見立てたものといえるかもしれません。一方、この絵に向かう作家の姿は、モデルとなった童女の心に、優しくなった叔父さんの想い出として永く咲き続けているのです。

コレクション展「フラワーズ!」ではこの他、花を題材にしたさまざまな作品をご紹介します。画家や写真家たちが花にどのようなメッセージを込め、また何を投影したかなどを感じていただけたら幸いです。

(当館学芸員 瀬谷 愛)

派

山時代から江戸時代の柱の一つと重要な文化財を展示紹介する企画

代を辿って紹介する作品の素晴らしさを理解いただき

雪舟とその後

10/27→11/29



IV 雪舟等場「山水図巻」(部分)

IV

雪舟

展示室A

香月泰男室
「シベリア・シリーズI～マチエールをみる～」
4/14～7/20

従軍・抑留体験を描いた香月泰男(1911～1974)の「シベリア・シリーズ」は、何を描いたかというテーマで特異であったばかりでなく、それをどのようなやり方で表現したかという様式においても独自でした。マチエール(絵はだ)の独自さなどを紹介します。



香月泰男「1945」1959年 山口県立美術館蔵

郷土工芸室
「十二代三輪休雪 優雅な欲望」
4/14～7/20

十二代三輪休雪(1940～)がデビュー後1960年代末から70年代にかけて制作した、情念豊かな陶のオブジェを紹介します。

十二代三輪休雪「オブジェ群」
山口県立美術館蔵

展示室C・D

「日本画の江戸と明治 森寛齋」
4/14～5/24

秋出身の森寛齋(1814～1894)は、幕末から明治前期に活躍した京都画壇の重鎮です。文化11年(1814)生まれの寛齋は、京都で円山派の流れをひく森派の画家・森徹山に学び、江戸末期の円山派を代表する画家となりました。維新後には、明治23年(1890)に最初の帝室技芸員に任命される栄誉を受けています。この展示では、「京人形図」など寛齋の代表作とともに、館蔵の森派の作品等をご紹介します。

森寛齋「京人形図」
山口県立美術館蔵

特別展予告

大ナポレオン展

8月5日(水) - 9月13日(日)

フランスの英雄ナポレオン・ボナパルト(1769-1821)は卓越した軍事的、政治的指導者であっただけでなく、ルーブル宮殿を美術館として広く一般市民へ公開したり、サロンの組織改正に取り組みなど、19世紀初頭のフランス文化、芸術の発展にも力を尽くしたことはよく知られています。本展は、ナポレオンの幅広い文化性に焦点を当て、同時代の絵画、彫刻、工芸、ジュエリーなど約100件の作品を紹介し



ジャック=ルイ・ダヴィッド
「サン=ベルナル峠を越えるボナパルト」東京富士美術館蔵

堀木エリ子展

11月11日(水) - 12月20日(日)

堀木エリ子(1962-、京都生まれ)は、和紙の世界に新しい領域を切り開いたクリエイターとして世界的に活躍している作家です。伝統的な「透かし」の手法を生かしながら現代的にデザインされた和紙を制作する一方、舞台芸術、空間装飾等、多様な領域において空間をデザインし、和紙の存在をアピールしてきました。このたびの展覧会では 光と和紙の融合によって生み出される柔らかな空間を体感していただくことを通じて、和紙の可能性および、堀木の造形世界に迫ります。

コレクション展年間シリーズ企画

雪舟と雲谷派

会場：展示室A (小林和作室)

山口県立美術館では開館以来、山口の地で活躍した室町時代の画聖・雪舟や、桃山時代から江戸時代末期にいたるまでこの地で雪舟流を継承した雲谷派の作品を収集・展示の柱の一つとしてきました。館蔵品を中心に開催するコレクション展においては例年11月に重要文化財を含む雪舟画を展示し、また通年にわたって、シリーズで雲谷派の画家たちの作品を紹介する企画展示を行っています。

本年のシリーズ企画では、雲谷派の作品の変遷を、その発祥から江戸末まで時代を追って紹介します。11月恒例の雪舟展示に加え、これらの展示をご覧いただくことで、雪舟作品の素晴らしさと、桃山時代以降に雪舟流がどのように受け継がれ、発展していったかをご理解いただきたいと思います。

- I 桃山の巨匠 雲谷等顔
- II 雲谷派二代 雲谷等益
- III 江戸初期の雪舟流 雲谷等益の時代
- IV 雪舟
- V 雲谷派三代 等與と等爾
- VI 雲谷派の変貌 四代等璠とその後

7/22→8/16



II 雲谷等益「瀟湘八景図屏風」(部分)

II

雲谷派二代 雲谷等益

8/18→9/13



III 雲谷等益「碁棋書画図」(部分)

III

江戸初期の雪舟流 雲谷等益の時代

10/27→



IV 雪舟等楊「山

IV

雪

I 桃山の巨匠 雲谷等顔

4/14(火) - 5/31(日)

雲谷等顔(1547-1618)は、文禄2年(1593)に毛利輝元から雪舟の旧居「雲谷庵」と「山水長巻」(国宝・毛利博物館蔵)を拝領し、雲谷派の祖となりました。等顔は現在でも、桃山時代を代表する画家の一人として高く評価されています。この展示では初期の代表作「山水図屏風」や、新たに見出された「瀟湘八景図画帖」などをご覧ください。



雲谷等顔「山水図屏風」(右隻) 山口県立美術館蔵

11/29



「山水図巻」(部分)

V

舟

12/1 → 12/20



V 雲谷等與「群鶴図」(部分)

V

雲谷派三代 等與と等爾

3/2 → 4/4



V 雲谷等璠「山水図屏風」(部分)

VI

雲谷派の変貌 四代等璠とその後

※図版の作品はすべて山口県立美術館蔵

美術館からのお知らせ

コレクション入門講座

コレクション展にあわせて学芸員によるコレクション入門講座を開講します。出品作品を出発点に、さまざまな美術の見方・味わい方をお話する、1時間程度の入門講座です。みなさまのご来場をお待ちしています。(先着80名)

スケジュール(～6月) 会場:美術館講座室(聴講無料)

第1回「シベリア・シリーズ ～マチエールをみる～」	5月2日(土) 14:00～	安井雄一郎 (当館副館長)
第2回「福田勝治と 昭和の写真」	6月6日(土) 14:00～	河野 通孝(当館普及課長)
第3回「現代美術の4つの絵画」	6月20日(土) 14:00～	斎藤 郁夫(当館学芸課長)

美術館ボランティアによる

こどものためのギャラリー・トーク みんなでみよう

コレクション展「フラワーズ!」を見ていきます。

日時:「フラワーズ!」会期中の毎週土曜日
(4月18日をのぞく)

11:00～(30分程度)

集合場所:コレクション展入口

参加費:無料(大人は観覧料が必要です)



観覧料金が変わります

2009年4月1日より、観覧料金が下記のとおり変更されます。何卒ご理解くださいますようお願いいたします。

旧料金 (3月31日まで)	新料金 (4月1日より)
コレクション展: 一般190(160)円	→ 300(240)円
学生120(100)円	→ 200(160)円

※()内は20名以上の団体料金。18歳以下と70歳以上および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在学する方等は無料。

特別展:別途定めた料金

2009-2010

schedule

山口県立美術館 平成21年度年間スケジュール

山口県立美術館 二ノ又1階112号 平成21年3月31日発行

発行 山口県立美術館 印刷 株式会社ケルニ

展示室A			展示室B	展示室C	展示室D
4	4/14~5/31 雲谷等顔	4/14~7/20	4/14~6/14 フラワーズ!	4/14~5/24 日本画の江戸と明治 森寛斎	
5					
6	6/2~7/20 日本画の昭和初期	香月泰男 シベリア・シリーズI —マチュールをみる	十二代三輪休雪 優雅な欲望	5/29~6/7 第32回山口伝統工芸展	
7			6/19~7/20 福田勝治と 昭和の写真	6/19~7/20 現代美術の4つの絵画	
8	7/22~8/16 雲谷等益	7/22~10/25	7/22~10/25	大ナポレオン展	
9	8/18~9/13 雲谷等益の時代	永地秀太と 太平洋画会	山口の伝統工芸 金工と赤間硯		
10	9/15~10/25 狩野芳崖 近代日本画を創る				
11	10/27~11/29 雪舟	10/27~12/20	10/27~12/20	第63回山口県美術展覧会	
12	12/1~12/20 雲谷派三代	香月泰男 シベリア・シリーズII —色彩をみる	植木茂 抽象彫刻の 先駆者		
休館 12/21~1/7					
1	1/8~2/28 松林桂月 最後の文人画家	1/8~4/4	1/8~4/4	1/8~4/4	第62回学校美術展覧会
2		小林和作 の四季	火と土の冒険 現代陶芸	松田正平 美しい絵はだを もとめて	2/3~2/7 山口県立大学卒業制作展 2/11~2/14 山口芸術短期大学卒業制作展 2/18~2/21 山口大学卒業制作展
3	3/2~4/4 雲谷派の変貌			3/2~4/4 京の美人画 案本武雄	3/2~4/4 プライベートな視線

Information

■休館日

月曜日(月曜が祝日もしくは振替休日の場合は翌日休館)
展覧会撤去にともなう臨時休館(12月21日~1月7日)

■開館時間

9:00~17:00(入館は16:30まで)

■料金

コレクション展:一般300(240)円 学生200(160)円
()内は20名以上の団体料金。
18歳以下と70歳以上および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在学する方等は無料。

特別展:別途定めた料金

山口県立美術館
YAMAGUCHI PREFECTURAL
ART MUSEUM
〒753-0089
山口市龜山町3-1
TEL:083-925-7788
FAX:083-925-7790
<http://www.yma-web.jp/>

